

第12回全国和牛能力共進会の概要

開催テーマ：「和牛新時代 地域かがやく和牛力」

主催	公益社団法人 全国和牛登録協会
運営団体	第12回全国和牛能力共進会鹿児島県実行委員会
参加	全国____道府県
会期	平成33年6月____日(____)～平成34年10月10日(祝・月)
最終審査	
会期	平成34年10月6日(木)～平成34年10月10日(祝・月)
会場	種牛の部 鹿児島県霧島市牧園地区 肉牛の部 鹿児島県南九州市知覧町 (株)JA食肉かごしま南薩工場
出品頭数	種牛____頭、肉牛____頭、合計____頭

【開催のねらい】

「能力共進会」の名称のもと、和牛の能力と斉一性の向上を目指す本共進会も、今回で12回目を迎え、____(新元号)に入って最初の共進会となります。本共進会の特徴は、日常の登録事業を通じて、それぞれの時代の要求に応じた形で和牛改良を進めていくため、改良上の狙いを出品区の設定に盛り込み、本共進会に取り組むことによって、将来につながる優秀な素材を生産及び発掘し、これを出品展示することによって、その成果を確認し、全共後に引き継いでいくことにあります。

そのため、本共進会では、開催のねらいに基づくテーマを掲げ、その実現に努めてきました。これまでの共進会では、

- 第1回(昭和41年・岡山県) 「和牛は肉用牛たりうるか」
- 第2回(昭和45年・鹿児島県) 「日本独特の肉用種を完成させよう」
- 第3回(昭和52年・宮崎県) 「和牛を農家経営に定着させよう」
- 第4回(昭和57年・福島県) 「和牛改良組合を発展させよう」
- 第5回(昭和62年・島根県) 「着実に伸ばそう和牛の子とり規模」
- 第6回(平成4年・大分県) 「めざそう国際競争に打ち勝つ和牛生産」
- 第7回(平成9年・岩手県) 「育種価とファイトで伸ばす和牛生産」
- 第8回(平成14年・岐阜県) 「若い力と育種価で早めよう和牛改良、伸ばそう生産」
- 第9回(平成19年・鳥取県) 「和牛再発見！ー地域で築こう和牛の未来ー」
- 第10回(平成24年・長崎県) 「和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」
- 第11回(平成29年・宮城県) 「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」

というテーマが設定され、それぞれ所期の成果を収めてきました。

前回大会では、第10回大会で掲げた「和牛維新」の達成を目指し、全国の繁殖雌牛の平均分娩間隔400日以内を目標に、育種価を活用した分娩間隔の短縮や種牛能力の高い雌牛の地域内保留による生産基盤の強化に取り組みました。同時に、遺伝的多様性の維持・拡大のため、地域の特色ある牛づくりの取り組みを強化するとともに、「風土の産物」とも呼ばれる和牛の魅力の発信に努めました。そのひとつとして、和牛肉の「美味しさ」を新たな角度から見つめ直す取り組みも行いました。育種価評価事業により、和牛の産肉能力とくに脂肪交雑については飛躍的に向上してきたことも踏まえ、新たな改良目標として、美味しさに関係する「脂肪の質」に着目し、客観的評価手法の確立と普及に取り組み、遺伝的能力評価に向けた体制づくりにも着手しています。今回は、これらの成果をより確実なものとしていくこととし、開催テーマを「和牛新時代 地域かがやく和牛力」として取り組みます。

まず、種牛能力については、繁殖牛として求められる基本的な能力であり、効率的な和牛生産を目指すうえで欠かすことのできないものです。とりわけ繁殖能力の向上については、引き続き、全国の繁殖雌牛集団における平均分娩間隔を400日以内にすることを目指し、分娩間隔の育種価をはじめとする繁殖能力に係る情報の生産現場での活用を推進します。また、種牛審査標準に基づく優良雌牛の選抜、保留を通じ、生産基盤の強化に取り組むとともに、種牛性の向上、すなわち、強健で、飼いやすく、連産性と哺育能力に優れ、飼料の利用性のよい雌牛集団の造成を目指します。

また、それぞれの地域の飼育環境に適応し、地域で代々保留されてきた特色ある遺伝資源を発掘し、活用していくことは、種牛能力の改良はもちろん、遺伝的多様性の維持・拡大にもつながり、将来の和牛生産と改良を担保するための重要な取り組みとなります。そこで、これまで各地で進められてきた系統再構築や地域の特色ある牛づくりをさらに充実させていくとともに、新たな系統や育種素材の発掘も行い、それぞれの地域に固有の遺伝資源の確保と活用を進めていきます。このような取り組みにより、全国で多様な遺伝資源を確保するとともに、系統の特色を遺伝的に固定し、魅力ある集団の構築につなげていきます。

歩留に代表される肉量と、脂肪交雑に代表される肉質については、遺伝的能力と肥育技術の向上により、高いレベルに到達しました。今後は、生産、流通、消費の動向を見据えて、効率的な牛肉生産に加え、食味の向上に重点を置いた遺伝的改良と飼養管理技術の研鑽が求められています。和牛独特の風味があり、口溶けが良く、食味の向上が期待される「脂肪の質」の改良体制の構築も促していきます。また、牛肉の一般成分としての水分、脂肪、タンパク質のバランスも和牛肉の美味しさに関連していることから、和牛肉の新しい価値観の創造につながるような、適度な脂肪含量で、交雑脂肪の形状も考慮した評価を追究します。

また、前回大会は復興特別出品区「高校の部」を付帯行事として開催しましたが、出品に向けて取り組む中で、地域内での技術支援や交流も深まり、担い手育成の環境整備にも一翼を担ったことから、今回は、新たに「高校及び農業大学校」の部を設定します。

これらの狙いの実現にあたっては、育種組合・改良組合をはじめとする改良組織活動が何よりの推進力となります。組織活動を活性化させると同時に、歴史や伝統、技術を伝承しながら未来を託す担い手を育み、また、地域を牽引する技術員も養成しつつ、地域全体での取り組みを推進します。

和牛は歴史と風土に培われた我が国固有の財産であり、日本の食文化を代表する食材として、国内外から高く評価されています。こうした評価を確かなものにするには、現状に留まることなく、常に成長と発展が求められます。本共進会を通じて、生産、流通、消費が相互に理解を深めつつ、ともに和牛の魅力の向上を考える契機となるよう臨みます。

食料、資源をめぐる動きが世界的規模となり、さらに厳しさを増すなか、和牛が我が国の食と農を支える基幹産業として、将来に亘る成長を実現するために、繁殖、肥育両面から生産効率を向上させ、更なる和牛の魅力の向上と発信を目指します。

【出品の区分について】(年は改元まで平成で記述する)

出品の区分

部	出品区	生後月齢※4	生年月日	備考
種牛の部				
	第1区(若雄)	15~23ヵ月未満	平32.11.7~平33.7.6	
	第2区(若雌の1)	14~17ヵ月未満	平33.5.7~平33.8.6	
	第3区(若雌の2)	17~20ヵ月未満	平33.2.7~平33.5.6	
	第4区(繁殖雌牛群)	3産以上		
	第5区(高等登録群)	14ヵ月以上	平33.8.6以前	
	第6区(総合評価群)			※1
	種牛群	17~24ヵ月未満	平32.10.7~平33.5.6	
	肉牛群	24ヵ月未満	平32.10.7以降	
肉牛の部				
	第7区(脂肪の質評価群)	24ヵ月未満	平32.10.7以降	※2
	第8区(去勢肥育牛)	24ヵ月未満	平32.10.7以降	※3
高校及び農業大学校の部				
	特別区(高校及び農業大学校)	14~20ヵ月未満	平33.2.7~平33.8.6	

- ※1 出品牛の父牛は、平成22年10月1日以降生まれのもの。
 ※2 出品牛の父牛は、平成17年10月1日以降生まれのもの。
 ※3 出品牛の父牛は、平成22年10月1日以降生まれのもの。
 ※4 月齢は鹿児島会場初日(平成34年10月6日)で起算する。

改良の中核的集団である和牛改良組合の活動を活性化させ、生産・改良基盤の強化を図るねらいから、種牛の部の出品者については、「和牛改良組合の会員」であることとしました。

また、能力共進会としてふさわしい大会にするため、種牛の部の全区の出品条件に繁殖能力と産肉能力の育種価条件を設定しました。また、総合評価群及び肉牛の部の全区において、新たな枝肉の価値観の醸成や定着を狙うことを目的とし、特に第7区では脂肪の質の育種価評価の実施を条件に加えるとともに、食味性の向上に寄与する種雄牛の発掘を促すような年齢制限としました。その他の区においても、改良速度の向上を図るには、世代間隔の短縮も重要であることから、引き続き父牛に年齢制限を設定した区を設けました。

遺伝的多様性の確保並びに地域の特色ある牛づくりについては、前回大会までの系統雌牛群の趣旨を継承し、またその取り組みの充実と発展を促すため、地域の特色ある系統から造成された種雄牛候補を出品する区や、地域で代々保留されてきた母系を活用した群出品区を設定しています。また、両親ともに自道府県産であるなど、地域の改良素材を活用する出品区も設けています。

また、和牛を飼育する高校・農業大学校からの出品を対象とした特別区「高校及び農業大学校」も設け、若い担い手の育成を目指します。

①若雄（1区）

和牛集団の遺伝的多様性の維持・拡大と、地域における特色ある系統の再構築と造成を目指し、将来にわたって系統の特色ある遺伝子を保留・固定していくための種雄牛候補の造成を目的とした区です。

出品牛を造成する系統は、地域における遺伝的多様性の維持・拡大を担うもので、地域の特色を備えていることとし、出品牛は系統内から造成された種雄牛候補とします。また、出品牛は産肉能力について、出品牛の母牛には繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛については、後代検定により早期に能力を確認します。

②若雌（2～3区）

改良組合活動の活性化による増頭意欲の向上とともに、全共参加者の拡大を促すことを狙いとした出品区です。

個人による個体出品で、出品者は、本会認定の「改良組合の会員」であることが条件です。

出品牛には産肉能力、その母牛には繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛を積極的に改良組合内に選抜・保留し、地域全体の生産基盤の安定と拡充につなげます。

③繁殖雌牛群（4区）

地域の特色ある雌牛集団づくりの実現と、育種組合及び改良組合活動による改良成果の確認と技術向上を目的とした出品区です。

本会認定の育種組合または改良組合による出品で、成雌牛3頭を1群として出品

されます。

出品牛は、3代以上（本牛－母－母方祖母）にわたり自道府県内で生産されてきた、地域の特色を備えている雌牛です。出品牛は、産肉能力と繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛及びその後代について、積極的に育種組合及び改良組合内で選抜・保留し、地域の特色ある牛づくりと生産基盤の安定と拡充につなげます。

④高等登録群（5区）

母－娘－孫娘に亘る改良の成果の確認と、優良雌牛系統の地域への保留推進と拡大を狙いとした出品区です。

本会認定の改良組合による出品で、高等登録の母牛と娘牛及び孫娘牛の直系3代にわたる3頭を1群として出品されます。

この区では、改良の中核となる高等登録の意義を再確認し、地域の生産・改良基盤の強化のため、高等登録の促進につなげます。

⑤総合評価群（6区）

種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区で、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良成果を確認することを狙いとした出品区です。

出品単位は本会認定の育種組合ならびに本会支所とし、道府県の改良方針に基づき計画的に造成された同一種雄牛の産子を種牛群（4頭）と肉牛群（3頭）合わせて1群として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、種牛群の出品牛は繁殖能力と産肉能力について、肉牛群の出品牛は産肉能力について、それぞれ一定以上の水準が求められます。また、種牛群、肉牛群ともに、自道府県内で生産された両親からの産子が出品されます。

この区の対象種雄牛により生産された優良雌牛を積極的に保留することで、種牛能力と産肉能力をバランス良く備えた次世代の繁殖雌牛集団づくりにつなげます。

⑥脂肪の質評価群（7区）

脂肪の質の育種評価体制の構築により、脂肪の質の改良につなげることを目的とした出品区です。

個人またはグループによる出品で、同一種雄牛の産子の去勢肥育牛__頭を1群として出品されます。

出品牛の父牛は、道府県の改良方針に基づき、計画的に造成されたものとし、一価不飽和脂肪酸（MUFA）またはオレイン酸の育種価が算出されていることが求められます。また、父牛には年齢の制限が設けられ、産肉能力について一定以上の水準が求められます。

この区により脂肪の質の能力把握から、種雄牛造成の体制を構築し、脂肪の質を始めとする「新たな枝肉の価値観」の醸成と定着につなげます。

⑦去勢肥育牛(8区)

効率的でかつ美味しい和牛肉生産を目指し、改良された和牛の能力と肥育技術により、和牛の魅力を最大限に引き出すことを目的とした出品区です。

個人による個体出品で、1つの道府県から2頭までの去勢肥育牛が単品として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、産肉能力について一定以上の水準が求められます。

この区の取り組みを通じて、繁殖・肥育の連携を強め、最適な生産サイクルの追究につなげます。

⑧高校及び農業大学校（特別区）

農業教育とその学習活動を通じた和牛への理解醸成と担い手の育成を目的とした区です。

和牛を飼育する高校及び農業大学校で生産・飼育された若雌1頭が出品され、出品牛と取り組み発表に対する総合的な審査を行います。

この区では、和牛生産・飼育を学ぶ学生の意欲向上を図るとともに、学生による和牛の魅力の発信を通じ、将来にわたり和牛生産に取り組む人材の育成・確保を目指します。